

京都教区時報

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
京都教区時報編集室
TEL 075 - 211 - 3468
FAX 075 - 211 - 4345

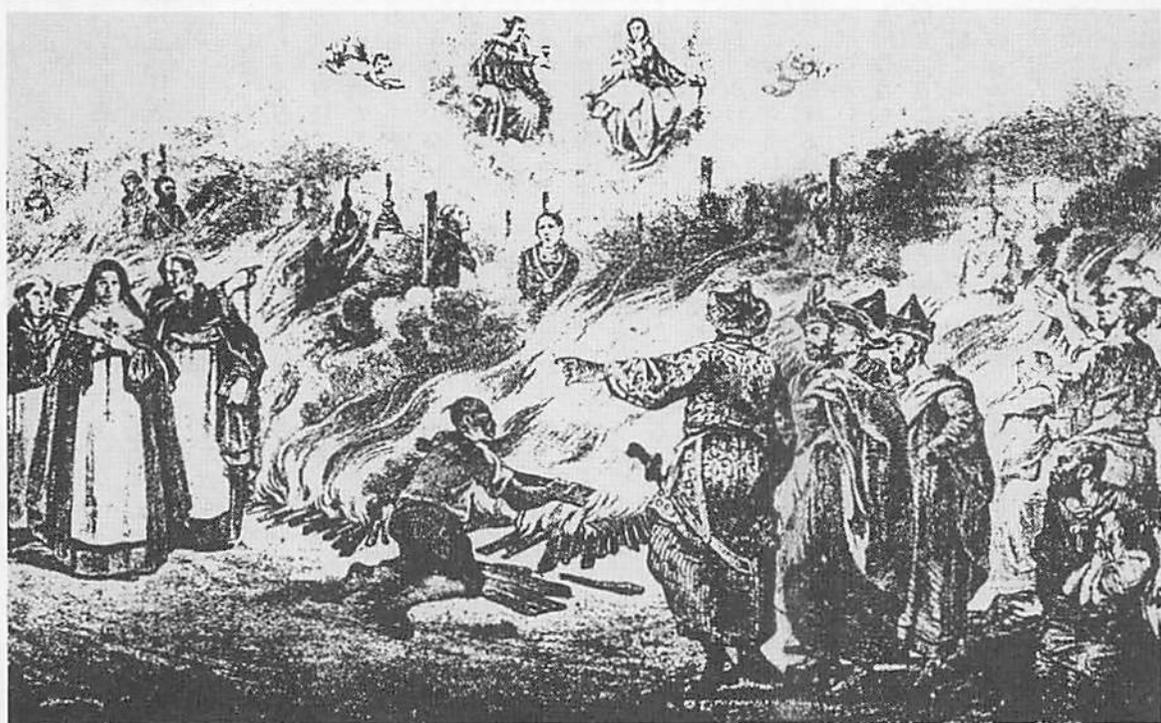
Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2～3頁 とうすのご奉公にすむべきこと 川村信三師講演

6頁 良書紹介 紙芝居と絵本(京都の大殉教)

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジ
ナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ
んまでお申込みください。

TEL・FAX 0794 - 31-8601



ドミニコ会発行の「長崎16殉教者 神のしもべ達の横顔」より
聖トマス西と十五殉教者

聖トマス西と十五殉教者

一九八七年に列聖された聖トマス西と十五殉教者は、一六三三年(三十七年)に長崎で殉教した人々です。日本人は九名だけで、フィリピン人の聖ロレンソ・ルイスはフィリピンでの最初の聖人の栄誉をになうことになりました。

共通する特徴は、禁教のさなか、激しい弾圧と飢え、寒さに耐えながら、自ら神との深い交わりのうちに生き、信者の信仰を強め、つねに神のみことばをのべ伝え、キリストのために命をすてたことです。彼らの福音宣教に生きる姿、そしてキリストのあかし人として生きたその生涯は、今日の私たちに信仰と生活を一致させ、福音宣教に生きるようにながしているようです。

「殉教者の血は信者の種」ということばもありますように、殉教者たちの信仰のあかしによって、今日のカトリック教会があると、いってもいいでしょう。

〔聖トマス西と十五殉教者〕より
引用)

9
2008

でつすのご奉公にすすむべきこと
 ～キリシタン共同体のあゆみとはたらき～

川村信三神父 (イエズス会)

現代の殉教観と列福の意義



最初に申し上げておきたいことは、京都教区は大塚司教様のご尽力により、こ

のような場が設けられています。が、全教会を見渡してみますと、必ずしも一八八列福を皆が喜んでいる訳ではないということ。盛り上がりがない教区もたくさんあります。実際、殉教とか列福とか四百年前の話はやめましょう、もっと将来に目を向けましょうという声がありますし、人間を顕彰してどうするのか、私たちが礼拝するのは神だけだといった強い意見もあります。人間を顕彰するつもりは全然ありません。むしろ殉教者たちが見ていたもの、最後まで信じ抜いたものは何だったのか、そちらに目を向けましょう、その一つの例としてこんな人たち

がいましたという取り上げ方をしましょうということが今回の列福の大きな柱です。

殉教者たちが見つめていた永遠のもの、一すなわち神様を、彼ら巡らすというポイントがあるのです。そして殉教者たちが私たちに与えてくれるメッセージにはいくつか柱があります。一つは、信じ抜いたということ。不信が渦巻く世の中で、私たちは信じることに鈍感になっていきますが、殉教者が語りかける「信じる」ということにポイントがあります。二つ目は、絶望するなということ。穴吊りという恐ろしい拷問を受けた殉教者も、暗闇の中で、今まで信じてきたことに対する疑いの心が起こったかも知れません。しかし彼らは最後の最後まで希望を捨てませんでした。主イエスが私たちのために亡くなってくださったという希望を失いませんでした。これが何より私たちが学ぶべきこ

とです。そして最後に愛するということ。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」(ヨハネ15・13)という

イエスの言葉通り、殉教者にとって友はイエスに他ならなかったのです。このように現代の私たちへのメッセージとしてこの殉教を考えましょう。もしも私たちが同じ信仰者ならば、この殉教者の生き方は同じ延長線上にあるのです。十七世紀に書かれた『丸血留の道』というキリシタンの心得についての本があります。この中に殉教がはつきりと定義されています。それによると殉教とは、無抵抗のうちにイエス・キリストの教え、あるいは道徳のために死ぬことです。キリシタンたちはこれを毎日復唱していました。自分は殉教者になれるか、と自問自答する人がたくさんいますが、殉教は与えられるお恵みであり、自分で得るものではありません。『丸血留の道』は「へりくだり」こそ殉教だとはっきり言っています。テクラ橋本、橋本太兵衛ら一八八殉教者はそれを実行した人達なのです。へりくだって与えられた最期を受け取った。そんなへりくだりが大事だと思えます。誰も殉教するとは言え

ません。私たちは恵みをいただけるように祈るだけです。

新渡戸稲造の『武士道』という著書に、真の勇氣とは、という定義があります。その中で、恐るべきものと恐るべきでないものを見極められる心が勇氣の源だとあります。日本の殉教者たちは、目の前の拷問の苦しみや火あぶりの火は恐れるに足らないものであり、本当に恐れるべきものは主から離れることだと知っていました。そこに殉教者の日本人としての生き様、本当の武士道という勇氣が見えます。そして最後に殉教者たちは『キリストに倣う』という本のように、イエス・キリストの十字架に一致することを望んだのです。これも殉教の思いとして私達は忘れてはいけません。

殉教者を育んだ共同体

司祭が不足し、秘跡になかなか与れないにもかかわらず、潜伏キリシタンの共同体が秘跡を中心にした共同体であったという逆説が生まれています。司祭がいなければ秘跡は出来ません。そんな状況にもかかわらずこの秘跡を一番大事にしようとした共同体こそが、殉教の共同体、あるいは潜伏キリ

シタンの共同体として残りまし
た。この不思議を少し考えたいと
思います。一五八七年、豊臣秀吉
による伴天連追放令が出され、約
二百名いた宣教師達の内、ある人
はマカオに逃れ、ある人は日本に
残り共同体に戻りました。その後
の一五九二年の統計によると、信
徒は二十二万五千人いたといわれ
ます。これは洗礼台帳から明らか
です。そして司祭は何人程いたか
というと、四十人です。四十人の
司祭が約二十万人の信徒に秘跡
を与えようと、約二百箇所の共同
体、あるいは祭壇を設けたチャペ
ルの共同体を必死に走り回ってい
ました。特にトリエント公會議が、
ゆるしの秘跡は年に一度は必ず受
けなければならぬ、大罪を犯し
た人は必ず口で告白しなければい
けない、といったことを強調した
ため、信徒たちも司祭を捜し回り
ました。ですから共同体には、司
祭が来たらすぐにミサや赦しの秘
跡ができるように準備し、去った
ら次回の司祭の訪問のために準備
をする人がいたはずでです。そして
北陸から九州まで全国二百箇所、
全く意思疎通の無かった共同体に
同じような準備と工夫があったと
いうのは、何か共通のシステムが

あったのではないか、そして、そ
れは何だったのかと私は考えまし
た。十数年前外国で勉強している
時、コンフララルニタス、日本で
はコンフラリヤというのですが、
信徒信心組織という話を初めて聞
きました。信徒が五十人、百人位
のグループになって、信徒だけで
自分達のリーダーを決め、会則を
もち、司祭・修道者の指導を全く
仰がずに、共通の様々な活動をし
ていたという信徒組織・信徒信心
会をいいますが、十三世紀頃から
この組織づくりがヨーロッパで盛
んだったというのです。イタリア
やイベリア半島などにコンフラリ
ヤの基本的な形がいくつかありま
した。十三世紀、ペルージャとい
う街である修道士が鞭打ち苦行と
して皆の前で上半身裸になり、自
分で鞭を打って悔い改めの説教を
しました。その時、彼に従って何
十人という行列が出来て、街中を
歩き回ったといっています。そして
街中だけでなく隣村にも行くと
そこでも同じような団体が起こ
り、行列があちこちに来たそう
です。この鞭打ち集団というイタ
リアらしい団体は一年程でなくな
りましたが、このように皆で共通
の信心業を一緒にしようという団

体がヨーロッパにたくさん出来ま
した。これがコンフラリヤの起源
だといわれています。鞭打ち・集
団苦行実践型であったり、病人の
世話や死者の埋葬などを行うミゼ
リコルチア等の慈善事業型の団体
も、信心業を中心に始まりまし
た。みんなで跪いて一昼夜リレー
で祈ったり、ロザリオを一緒にし
たりする。そのような様々な活動
項目で五十〜百人のグループがで
きました。こうした信徒信心組織
は教会を支え、宗教改革時代に至
るまで繁栄しました。

コンフラリヤの日本移入

ポルトガルやイスパニアを含む
イベリア半島で盛んになった信徒
信心会は、十六世紀イエズス会
の宣教師によって日本にもたら
され、初めに大分県豊後に病院を
作りました。立派な小教区をつく
るには司教が必要なため、司教が
日本に来るまでの五十年間、イエ
ズス会やフランシスコ会の宣教師
達は宣教共同体を作るだけでし
た。それで病院共同体を作ったの
です。イエズス会のルイス・デ・
アルメイダは医学の心得のある人
だったので、イエズス会士たちは
医療活動を始めました。その時、

信徒十二名を選んで病院を手伝わ
せたというのが日本版ミゼリコル
チアの起りです。病院を手伝う
信徒組織として教会共同体が日本
に初めて出来ました。外科、内科
がありました。もう一つ大切な
こととして、彼らは重い皮膚病の
方々の世話をしました。当時重い
皮膚病の人達はひどい差別を受
け、社会から追い出されていまし
たが、ミゼリコルチアは教会活動
をしながらその人達を治療し世話
をしました。またミゼリコルチア
のもう一つの大きな力として、死
者の埋葬があります。ある記録に
は、道端で行き倒れて死んでいる
人達は聖(ひじり)さんという役
割の人が犬や猫のように穴に埋め
て葬るだけだったと書いてありま
す。ところがキリシタン達はそれ
を美しく葬儀までしてあげるの
です。ミゼリコルチアはその葬儀の
マニュアルを作っているのです。
日本で最初に行われたといわれる
西洋式葬儀には三千人の見物客が
集まったと言われています。他に
もミゼリコルチアは、自分たちの
本部の前にミゼリコルチアの箱と
いう献金箱を置き、集めたお金を
貧しい人たちの葬儀費用にしてい
ました。

(次号に続く)



講演会「どうすのご奉公にすすむべきこと」質疑応答

5月に行われました川村信三師による講演会の質疑応答(要約)を2回にわたってご紹介します。なお、講演要旨は当誌の2～3ページに掲載されていますので併せてお読みください。

質問1、お話のなかに、「殉教者を育む共同体は、秘跡に生かされた共同体」ということが、ありましたが、司祭が不在のなかで、どのようにしてそれが可能だったのでしょうか。

回答 ゆるしの秘跡と考えてお答えします。ゆるしの秘跡については非常に興味深いことがあります。『こんちりさんのりやく』というのをご存知ですか。これはキリシタン時代に出回った教理書ですが、そのなかにキリシタンたちが「オラシヨ」として唱えていた祈りがあります。その内容はゆるしの秘跡に関するもので、たとえ司祭がいなくても、司祭がいずれ現れたときに告白するという覚悟があれば、真の痛悔だけでゆるしの秘跡をしたことになるということです。これは日本的な例外で、今はもちろんゆるされませんが、迫害下の教会では、たとえ踏み絵を踏んでも真の痛悔をして、「こんちりさんのオラシヨ」を唱えてゆるしの秘跡の代わりにしてもちこたえていたのです。キリシタンたちが250年間、司祭不在のなかで待っていた原動力のひとつに「こんちりさんのりやく」という仕組みがあったのです。

質問2、これからの宣教にコンフラリヤのような知恵が生きてしょうか。

回答 現代の日本では地域共同体というのが崩壊しています。しかし、たくさん信徒を増やし続けている新興宗教はたくさんあります。そういった宗教団体は信徒組織を非常に充実させ、相互扶助団体を作っています。わたしたちが都会で失ってしまったような地域共同体を復活させています。カトリック教会は地域共同体づくりが遅れています。教会にミサに来て、月1回、維持費を払えばすんでしまうようなところがあって、お互いに助け合おうということは少ないですね。だから農村とか都市とかに関係なく相互のコミュニティー作りのためには16世紀のヒントが生きて来ると思います。

質問3、信仰に命をかけた殉教者は死ななければ地獄に行くのが恐ろしくて肉体的な死を選んだのではないのでしょうか。

回答 宣教師たちが地獄の恐れを説いたことは事実です。そしてそれを避けたいために教会に来てゆるしの秘跡に与った人も確かにいたと思います。しかし、殉教という自らの命をかけた人たちにおいてはそういうところは超越していたのではないのでしょうか。永遠の罰よりも、むしろ、永遠の至福、すなわち、神との一致に達するパラソ(天国)について希望を持ち続けたようです。

質問4、今は洗礼を受けるのに要理を1年近く習って、やっと洗礼を受けますが、当時の信者が急に多数増えたという話を聞くと不思議に思います。

回答 確かに、村に帰って30人一緒に洗礼を受けたという話がありますね。実は、キリシタン時代の洗礼の一番大きな条件は、唯一の神、創造主がいるかいないか、それを信じるか信じないかということだけでした。三位一体論とか難しい教義の話を教えてもらうのは後のことです。ほとんどの人は、絶対・唯一の創造主ということの一つの関門として与えられ、それを受け入れれば洗礼を受けることが出来ました。あとの細かいいろいろなことは、『どちりなきりしたん』という教理書がありますから、それを復唱しているわけです。水方さんといった人達があとで活躍するのも同じような理屈だと思います。



● 基調講演



「京都のキリシタンと看坊」

五野井 隆史氏

(聖トマス大学教授、東京大学名誉教授)

● パネリスト



レンゾ・デ・ルカ師

(イエズス会司祭、日本26聖人記念館館長)



廣瀬 敦子氏

(キリシタン史研究家)



Sr.小川 美子

(ヌヴェール愛徳修道会、
京都北部地区宮津ブロック共同宣教司牧協力者)

パネルディスカッション



コーディネーター
大塚喜直司教

ザビエルから共同宣教司牧まで
時代を生き抜いた司祭・信徒たち

■ 日時 2008年9月13日(土) 1:30~4:30

■ 場所 河原町教会聖堂

■ 主催 京都司教区「京都の大殉教」列福記念事業特別委員会 ■ 参加費 無料

問い合わせ先：京都カトリック福音センター
〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル
Tel 075-229-6800 Fax 075-256-0090
E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp

ラモス神父



所属 属人区
オプス・デイ
生年 1959
叙階 1987

スペイン北部から日本に来ることになった時に、素晴らしい冒険と
思っ、とても喜びました。飛行機
での長い旅の間に特に一つの言葉が
浮かんできました。「わたしたちは
東方でその方の星を見たので、拝み
に来たのです。」(マタイ2・2)日

.....
こんにちはは神父さん
.....

外崎豊神父



所属 札幌教区
生年 1959
叙階 1995

子どもの頃、大きくなったら何
になりたいのかとよく聞かれたも
のである。大抵の場合、次のよう
に答えていた。「神父様!」。そう
すると、信者のご婦人たち、特に
シスターからは特に喜ばれ、「ま
あ、素晴らしい!」と必ず言われ

本にはたくさんの方がイエスを見
礼拝するようにと祈りました。今も
その言葉は刺激と励みになります。

1991年に来日し、長年大分
働きました。オプス・デイのセンター
で黙想会、勉強会、霊的指導など、
そして、大分教区の国際協力委員会
を担当し、外国人の信者の司牧に当
たりました。私は大分出身と誇っ
ています。今は京都の吉田学生セン
ター(男子)と下鴨アカデミー(女
子)で手伝っています。趣味はハイ
キングとスポーツで、大学にスペイ
ン語を教えています。

たものだ。シスターは決まって次
にポケットから飴玉を取り出し
て、いつもいただくことができた。
少年の私はこれに味をしめて、事
ある毎に、自分の意に反してその
ように答えていたように思う。

ある先輩司祭の名言がある。神
様には「みわざ」と「しわざ」が
あるのだと。素晴らしい神の「み
わざ」。そして、自分というもの
を思い知らされる神の「しわざ」。
私が司祭にさせていただけただの
は、もちろん後者。

良書紹介

紙芝居と絵本

27本の十字架

— 京都の大殉教 —

この度、京都の大殉教の紙芝
居と絵本をカトリック京都司教
区の「京都の大殉教列福記念特
別委員会」が製作した。

京都の大殉教(10月6日)に
ついて、子供たちを初め私たち
はどこまで理解出来ているので
あろうか? そのような思い
から黒田正氏(加悦教会 信徒)
は原画と文章を作成し、頭島光
師(レデンプトール会司祭)が
監修したスライドショーとして

の物ができていた。これを見た
大塚喜直司教は、列福記念事業
の一環として子供から大人まで
多くの方が手に取り分かりやす
く理解できるようにと紙芝居と
絵本としての製作を決めた。原
画は子供にも親しみやすいクレ
ヨンによるアニメ仕立てになっ
ている。絵本の文字は大き目に
作成した。

1619年10月、将軍徳川秀
忠は、ジョアン橋本とその妻テ
クラと5人の子供たちを含む52

名をみせしめのため、女子供を
問わずキリシタンはみな火あぶ
りの刑に処するように命じた。
鴨川の河原で27本の十字架のも
と彼らは祈りと喜びに満ち溢れ
ていた。身重のテクラは娘ルイ
サをしつかりと抱きその両脇に
2人の息子が縛り付けられてい
た。火が放たれ殉教者たちの祈
りが天に放たれた。自分たちの
名誉のためではなく、ただひた
すら自らが信じるもののために
命を賭けたのであった。

「殉教」とは壮絶な歴史事実
であるが、「現代の殉教」を生
きるように召される私たちはこ
れを次世代に語り継ぐ大切な使
命がある。



お知らせ

青年センターから

▼ネットワークミーティング in 東京 13日(土)～14日(日) ▼カトリック青年連絡協議会 in 東京 14日(日)～15日(月)

▼聖書の集い 27日(土)

教区委員会から

◆聖書委員会 ▼よく分かる聖書の学び 17日(水) 10時半 河原町会館 6階ホール ▼聖書講座シリーズ 3・4日 西経一師、17・18日 一場修師

◆列福記念事業特別委員会 ▼パネ

ルデイスカッション「ザビエルから共同宣教司牧まで―時代を生きわた司祭・信徒たち 13日(土) 13時半 河原町教会 ▼京都の大殉教巡礼会 27日(土) 9時半 河原町教会、元和キリシタン殉教の地碑、南蛮寺、26聖人発祥の地碑などの巡礼、事前申込要 FAX 075 (822) 2397

修道会から

◆京都女子カルメル会 ▼講演とミサ 15日(水) 13時半 京都女子カルメル会修道院聖堂 講演「聖テレジア」 講師・中川博道師

聖ドミニコ女子修道会

▼みことばを聴こう 9月6日(土) 9時半 講師 鶴山進栄師 対象 青年男女 ▼ロザリオを共に祈る会 19日(金) 10時半 どなたでもどうぞ ▼問合せ 075 (231) 2017

ノートルダム教育修道会

▼来てみなさい「自分の生きる道を祈りましょう」 10月11日～12日 ノートルダム唐崎修道院 対象 独身女性 費用 5000円 締切 30日 問合せ 077 (579) 2884

ブロック・小教区から

◆名張教会 FAX の変更 ▼ FAX 0595-61-2515

地区協議会から

◆滋賀カトリック協議会 ▼例会 28日(日) 長浜教会

カトリック奈良地区協議会

▼聖書講座 12・13日 ナバロ師、26・27日 一場修師 奈良教会 だし 12・26日は八木教会

諸施設・諸活動から

◆カトリック聴覚障害者の会 京都グループ ▼手話学習会 11日(木) 13時 河原町会館 6階

◆京都カトリック混声合唱団 ▼練習日 14日(日) 14時、27日(土)

18時15分 ミサ奉仕、その後練習

◆京都カナの会 ▼例会、結婚相談室 7日(日) 13時半 河原町会館 6階

◆京都キリシタン研究会 ▼定例会 28日(日) 14時 河原町会館 6階

◆コロチエレステ ▼練習日 毎月第2、第4、第5木曜日 河原町会館 6階

◆聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 ▼河原町協議会 14日(日) 河原町教会

◆二金会 ▼例会 12日(金) 11時 西陣教会

◆糠みその会 ▼例会 25日(木) 19時半 九条教会ホール

◆心のともしび 9月番組案内

▼テレビ(衛星・ケーブル放送) スカイA スポーツプラス

毎週土曜日朝8時45分より

渡辺和子によるシリーズ「キリストの香り」 6日「一人一人の魂への愛」 13日と20日「ほほえみの力」 27日「タイトル未定」(但し13日は7時30分から時間に変更)

▼ラジオ(KBS 京都ラジオ) *9月のテーマ「チャンスを生かす」。

月～土 朝5時15分より5分間。 問合せ 075 (211) 9341

◆「二万匹の蟻運動」基金報告 累計円 52,747,056円

(7月14日現在)

パウロの世界に学ぶ1

15	イスパニアへの宣教	ローマ15・24、28、ペトロ行伝	ローマでの殉教	エウゼビオスの教会史
14	青年時代	使22・3	回心	使9章22章26章
13	第一回エルサレム上京	使9・26、ガラテヤ1・18	シリア・キリキア宣教	ガラテヤ1・18
12	第二回エルサレム上京	使11・30	第一回宣教旅行	使13章14章
11	エルサレム使徒会議	使15章	章、ガラテヤ2・1	使10
10	第二回宣教旅行	使15・36	第三回宣教旅行	使18・23
9	逮捕・投獄	使21・27	ローマへの護送	使27・1
8	ローマでの軟禁	使28・16	ローマでの軟禁	使28・16
7	ローマでの軟禁	使28・16	ローマでの軟禁	使28・16
6	ローマでの軟禁	使28・16	ローマでの軟禁	使28・16
5	ローマでの軟禁	使28・16	ローマでの軟禁	使28・16
4	ローマでの軟禁	使28・16	ローマでの軟禁	使28・16
3	ローマでの軟禁	使28・16	ローマでの軟禁	使28・16
2	ローマでの軟禁	使28・16	ローマでの軟禁	使28・16
1	ローマでの軟禁	使28・16	ローマでの軟禁	使28・16

大塚司教の

9月のスケジュール

- 4日(木) 福岡・「福岡サン・スルピス大神学院」開校
準備司教委員会
- 7日(日) 京都南部・西ブロック
司教訪問(桂教会)
- 9日(火) 青少年委員会15時
- 10日(水) 中央協議会
- 11日(木) 中央協常任司教委員会
- 13日(土) パネルディスカッション(河原町)
- 14日(日) スペイン語ミサ(彦根教会) 11時
- 15日(月) 第20回日本カトリック
神学会学術会議(南山大学)
- 16日(火) 滋賀学法理事会(大津) 15時
- 17日(水) 18日(木) 司教顧問・
地区長合同会議
- 20日(土) 「京都の大殉教」列福記
念事業特別委員会14時
- 21日(日) 京都南部・東ブロック
司教訪問(北白川)
- 28日(日) 国際ファミリーデー(三
重地区・セントヨセフ
学園)
- 29日(月) 30日(火) 大阪管区

事務局長会議(京都)



○ある病院に和顔愛語と書かれた色紙が飾られていました。私はこれを見た時に、温和な笑顔で愛のある優しい言葉。私たちが生きていく中での基本的なことのように思いました。(T)

○異常気象などがあると地球温暖化のせいだと言われますが、ともかくいつも質素を心がけることがイエスに従うことかなという気がしています。(TO)

お知らせ

アキリノ・タバモ師(奈良
地区南部ブロック担当司祭)
一時帰国

◆編集部から

お知らせに載せたい情報は、前月の1日までに、教区時報担当宛に FAX075(211)4345 か、henshutu@kyoto.catholic.jp に、発信者のお名前を明記してお寄せください。

ワールドユースデーinシドニー報告

唐崎教会 篠田 正司

7月9日から7月22日までWYDシドニー大会に参加してきました。行ってみようと思ったのは過去のWYDに行った人達みんなから「一度は行くべきだ」と聞いたからです、今の行ってしまった自分としてはみんなに「一度は行くべきだ」といいたいです。それぐらい素晴らしい体験が出来ました。二週間の間にいろんな事がありました。いろんな人に出会い、

もしかしたらこんな事は普段の日常でもありえることです、WYDでは聖霊を通じていろんな事があり、いろんな人に出会い、いろんな事を考えました。そしてどうなったかを一言で言うと「神様との距離が近づいた」という感じがします。神様はWYDを通じて僕たちにいろんな語りかけをしてたんだと思いました。その語りかけは偶然とか、たまたま起こった事ともとれるようなことです

が、それだけじゃないような気がします。世界中の人たちがそれぞれの想いを、十字架を背負って同じ場所に集まり、徒歩巡礼をし野宿をし、最後に教皇ミサに授かりました。最初はただただ楽しいWYDも、その頃には多くの人と多

くの十字架を分かち合えました。すると、これまでは重たくて冷たい十字架も少し軽く少し暖かい十字架になりました。それも神様からの語りかけで、やっと僕はその語りかけを語りかけとして聞けるようになったんだと思います。

今までは一方的な訴えとか聞いかけばかりでしたけど、そんなんじゃ距離は縮まりません。誰かと仲良くなるうと思ったら話するだけじゃなくて相手の話も聞かないといけません。それこれもみんながいたからWYDに行けたし、楽しく過ごせましたし、困った時も助けられました。ほんとみんなに感謝です。また、一緒に行けなかったみんなとは、この気持ちを分かち合いたいです。

これからの人生は勇気を持って進んでいけそうです。

【青年センターホームページ】

<http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

※青年センターからのお知らせやジョバニの記事、掲示板等をご覧ください。

※携帯電話からもご覧いただけます。

青年センターあんでな